

ORACLE APPLICATION DEVELOPMENT FRAMEWORK (ORACLE ADF) 11G

おもな機能と利点

ORACLE ADF 11G の機能

- REA/RIA の強力なコンポーネント
- Page Flow 2.0
- 宣言的なデータ・バインディング
- 宣言的なビジネス・サービス
- マルチチャンネル・クライアント・サポート
- 宣言的なエンド・ツー・エンドのセキュリティ
- 宣言的なアプリケーション・カスタマイゼーション
- 再利用性
- 開発者の生産性
- 簡便性

Oracle ADF は、アプリケーション開発者に比類ないほどの高い生産性をもたらす、Enterprise Java プラットフォーム上で構築されたエンド・ツー・エンドの開発フレームワークです。このフレームワークは、アプリケーションの各種レイヤーに対応した統合インフラストラクチャを備えており、そのインフラストラクチャ上で容易に開発する手段を提供します。

リッチ・エンタープライズ・アプリケーションのコンポーネント

Oracle ADF には、150 を超える標準ベースの Java Server Faces (JSF) コンポーネントと組み込みの Ajax 機能が含まれています。これらのコンポーネントを使用して、以前はシック・クライアント・アプリケーション向けであった機能性と双方向性を備えたレベルで、Web デプロイのユーザー・インタフェースを開発できます。使いやすい一連のコンポーネントによって、データ・インタラクション、データ可視化、およびカプセル化されたブラウザ側の操作が実現し、リッチ・クライアント・アプリケーションの開発をさらに容易にします。

Page Flow 2.0

Oracle ADF は、基本的な JSF コントローラを拡張して ADF コントローラを提供しています。ADF コントローラは、ページおよび操作フロー制御の強化、ステート管理の包括化を図り、さらに、そのほかのフローおよび JSF ページやポータル内でコンポーネントとしてフローを再利用できるようにすることで、リッチ・エンタープライズ・アプリケーションに特有のいくつかの問題を解決します。

ドラッグ・アンド・ドロップによるデータ・バインディング

Oracle ADF は、データ・バインディング・フレームワークを提供し、UI とビジネス・サービスをバインディングするタスクを IDE 内の単純なドラッグ・アンド・ドロップ操作にまで簡易化します。これは、ビジネス・サービスをその消費者から独立させた状態で実現されます。フレームワークを使用すると、UI 開発者は、基盤となるビジネス・サービス・レイヤーの実装から分離されます。これにより、UI の構築プロセスはビジネス・サービス・レイヤーの実装から完全に切り離されるため、サービス指向アーキテクチャで実装するアプリケーションを適切に配置できます。

Oracle ADF Business Components

Oracle ADF Business Components は、その高度な宣言的メタデータに基づく開発スタイルという特徴を持つことから、ビジネス・サービス開発とオブジェクト・リレーショナル・マッピングのタスクに適しています。この高性能なコンポーネントは、リレーショナル・データベースに宣言的にアクセスできるように仮想的に設計およびカスタマイズされます。ビジネス・コンポーネントは、カスタム・ビジネス機能、宣言的な検証、セキュリティ、および高度なオブジェクト・リレーショナル統合を実装できます。Oracle ADF Business Components は、ADF メタフレームワーク内で実現可能なビジネス・サービス

実装の 1 つに過ぎません。開発者は、EJB/JPA、Web サービス、POJO、およびサービス・レイヤーのそのほかの実装も自由に使用できます。

マルチチャネル・クライアント

さまざまな配信方式を考慮に入れて ADF アプリケーションの開発を行うことが可能です。このフレームワークは、Web ベースのインタフェース、モバイル配信、および Microsoft Excel との統合を含むデスクトップ・アプリケーションの直接実装をサポートします。これは、配信方式の選択に応じて適切なコンポーネントを利用するアプリケーションの設計と同じぐらい簡単です。多くの場合、1 つの配信方式を実装するために利用されるコンポーネントは別の配信方式もサポートできるため、変更の必要がありません。

セキュリティ

Oracle ADF は、宣言的な形式で ADF ベースのアプリケーションに統合される強力な許可ベースのセキュリティ実装を提供します。アプリケーション内のさまざまなレイヤーでセキュリティを実装することで、任意のレベルのセキュリティ粒度を実現できます。ADF セキュリティは、Oracle Fusion Middleware のセキュリティ基盤であり、企業の ID とアクセス管理コンポーネントに完全に統合された Oracle Platform Security Services (OPSS) に基づいています。Oracle Access Manager for Single Sign-on、Oracle Internet Directory、LDAP サービス用 Microsoft Active Directory などの既存の投資を再利用することができます。

宣言的なアプリケーション・カスタマイゼーション

Oracle ADF では、オラクルのメタデータ・リポジトリの機能を使用して、宣言的なアプリケーション・カスタマイゼーションを追加設定なく実行できます。ベース・ソース・コードを変更しなくても、アプリケーションへの変更を階層化することで ADF アプリケーションをカスタマイズできます。フレームワークのレイヤーごとにカスタマイズできるため、特定のユーザーのニーズにあわせたアプリケーションを実現できます。

生産性

Oracle JDeveloper を使用した ADF アプリケーション開発は、包括的で視覚的かつ宣言的なエクスペリエンスを提供します。つまり、開発者がビジュアル・エディタとダイアグラムを使用してアプリケーションを設計している際は、統合ダイアログとプロパティ・インスペクタでその設計をカスタマイズできます。また、JDeveloper では、開発者はソース・コードを直接編集することができます。これにより、アプリケーションのタイプや開発者の好みに合わせて、自由に開発スタイルを切り替えることができます。

JDeveloper は、Java、JSP、PL/SQL、ADF など、通常はアプリケーション内で使用される複数の言語やフレームワーク内にブレイク・ポイントを設定できる、完全なデバッグ・ソリューションを提供します。JDeveloper は単独で、統一された独自のデバッグ・エクスペリエンスを提供するため、開発者はシームレスにこれらのコードおよびフレームワークのレイヤー内をステップ・スルーできます。

すでに述べた優れた再利用性機能に加え、Oracle ADF は、ADF ライブラリおよびビジネス・リソース・カタログによる再利用性をサポートします。これにより、さまざまなフレームワークの成果物とビジネス・コンポーネントをシンプルで配布可能なアーカイブにパッケージ化し、共有できます。

結論

オラクルの Application Development Framework は、業界標準に基づくエンタープライズ・アプリケーションの構築を目指すアプリケーション開発者に、比類ないレベルの高い生産性をもたらします。Oracle ADF は、開発者にすでに提供されているすべてのプログラミングにすぐに使用できる高性能な機能を提供します。この簡便なフレームワークを利用すれば、組織は、独自に開発したアプリケーションをもっとも豊富な機能レベルへと導くことができます。そして、ADF 開発に JDeveloper を使用することで、"生産性と選択肢"というビジョンから、必要な労力を最小限に抑えながら、これまでにないほどのチームの生産性を実現できる開発への取組みを展開できます。



Oracle is committed to developing practices and products that help protect the environment

Copyright © 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクル社の書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。0109